

農業×若者 無限の力

美里「無の会」半農半商に挑戦

農業人口の減少や高齢化が問題となる中、会津美里町に県内外から集まった若者が有機農業に取り組む農業法人がある。口コミで評判が広がり、農業の可能性を追求する若者が次々と訪れるほか、県外からの視察も後を絶たない。今年から新たに、社会で働く人が仕事をしながら農業を体験できるプログラムを始めるなど、挑戦を続けている。

有機農法を研究



共同生活しながら、循環型自然農法の探究に取り組む自然農法無の会

県内従事者、半数65歳以上

県によると、2024年2月時点の県内の農業従事者（個人経営体）は8万7000人で平均年齢は63・7歳。年代別では65歳以上が4万5千人（55・8％）で半数以上を占め、最少は39歳以下が占めている。

「農業はもうろく、農業にとらわれずいろんな人が集まる場所になってきている」。会津美里町の農業法人「自然農法無の会」代表の児島徳夫さん（74）は笑顔を見せる。児島さんが20年前に設立した法人は現在、9人で活動し、ほとんどが20～30代前半だ。

児島さんは県立高校の英語教諭時代に環境問題に興味を持ち、農業や化学肥料を使う農業に疑問を抱くようになった。それらに頼らない有機農業を研究し、農業の世界に飛び込んだ。

活動を続ける中で、取り組みに興味を示す人が集まり始める。無の会で働く宇野宏泰さん（32）＝東京都出身＝もその一人だ。米国の大学を卒業後、全国の有機栽培農家を巡る中で無の会と出合った。「栽培や実験などやりたいことに十分に取組める環境だ」。宇野さんは会津に移り住み、メンバーに加わった。

「自由に活動できるところがいい」。メンバーの大島武生さん（26）＝東京都出身＝は魅力を感じている。大島さんは京都大在学中に無の会を知り活動に共感、3年近く行動を共にし、児島さんは土と向き合う。

「農業はもうろく、農業にとらわれずいろんな人が集まる場所になってきている」。会津美里町の農業法人「自然農法無の会」代表の児島徳夫さん（74）は笑顔を見せる。児島さんが20年前に設立した法人は現在、9人で活動し、ほとんどが20～30代前半だ。

児島さんは県立高校の英語教諭時代に環境問題に興味を持ち、農業や化学肥料を使う農業に疑問を抱くようになった。それらに頼らない有機農業を研究し、農業の世界に飛び込んだ。

活動を続ける中で、取り組みに興味を示す人が集まり始める。無の会で働く宇野宏泰さん（32）＝東京都出身＝もその一人だ。米国の大学を卒業後、全国の有機栽培農家を巡る中で無の会と出合った。「栽培や実験などやりたいことに十分に取組める環境だ」。宇野さんは会津に移り住み、メンバーに加わった。

「自由に活動できるところがいい」。メンバーの大島武生さん（26）＝東京都出身＝は魅力を感じている。大島さんは京都大在学中に無の会を知り活動に共感、3年近く行動を共にし、児島さんは土と向き合う。

▲ 9月29日 福島民友新聞掲載

「自然農法無の会」が今取り組んでいることを2つ、抜き出してまとめてください。

「自然農法無の会」が行っている「半農半商ラーニングコミュニティ」とはどのようなものですか。

県内の農業従事者の半数は65歳以上であることについて、今後どうしていくべきと考えますか。